

新聞雜誌披華要旨

War Relocation Authority

Washington Daily News Special June 30, 45.

(1) シンシ、カンサス市、スター紙 六月廿六日 (ダイレスト六月廿一日)

(日系人の爲めホステル開設)

ホスリック、新教友チャカ三教徒の斡旋の下に合同市に於て日系人の爲めホステルを開設し六月廿七日一般に公開する筈である。右開設に就き地方委員会には約4万を投じて右建築がホステルに使用出来る様改造せしむるがある。目下臨時管理人とシカンサス齒科大、導教授永本氏が聘任して居る。(二吋)

(2) 華州タコマ、ニューストリビューン紙 六月八日 (六月廿一日)

(日系勇士を歓迎)

同紙並に市俄古其他の新聞の報ずる如く據れば政州戦線が開つた戦動概して第四歩兵聯隊の勇士達は病院より休暇にステイグニスホテルに於て盛大なる歓迎晩餐会に招待されたと。晩餐会の茶起人はシシビ州の豪農家アル、フィンチ氏であるが同氏は一九四三年日系人兵士が氏の農園附近に訓練され居た時より趣味を持ち其後日系兵士が政州より帰還する都度再三パーティを持ち居たをある。彼は日系兵士達が如何なる戦動を成して居たかを人々に知らしめ、且つ彼等兵士もより良く人民に理解せしむるに勵めて居る篤志家である。(八吋)

(3) 加州、サンゼ、マホリ、ヘラルド紙 六月六日 (六月廿二日)

(立退者百名帰還)

二臺の特別列車はグト山転任所出所者百名以上及廿五名のポストン転任者を乗せ六月五日サンゼに到着する豫定となして居ると発表し、ハート山出所者の七割五分は加州に帰還すると傳へて居る。(四吋)

(4) 華州、ギトル、タイムズ紙 六月廿日 (六月廿二日)

(歩兵隊員の復職準備は固定住兵士をも援助)

第四四三聯隊の將校達が帰国二世兵士達の照会状を付け復職を援助すると云ふ話を報告しギトル紙には更に付け加へて太平洋沿岸で排斥された被害日系兵士の爲めにも其の機会を準備する云ふて居る。

(5) 桑港、コール、ブルテン紙 六月廿六日 (六月廿三日)

(日本軍国主義の原因と療法)

ハスト紙はジョン云、牧氏の著書「日本軍国主義の原因と其の療法」を批判して謂く「右の著者は日系市民であるが、日本民族を全從せしめ、彼等日本人の思想を理論的に明瞭に陳述して居る。歴史的な背景に對する彼の明晰な評論は教訓的又啓発的にもあり、日東帝国の發展は彼等日系人の依つて已に説明出来る様な書かれを書物であると評して居る。

(6) 加州ハリウッド、シテイズマン紙 六月廿五日 (六月廿三日)

加州 WRA 監督、ボルト、ロブソン氏の食表に據れば前華府転任局本部役員が

ア、ハバルド、ボルト氏が羅州郡地方臨時監督として任命されたと。旧監督はレイモンド、ブラス氏であったが、全面羅州府シヴィックユニタリー、カウンシルの理事となつて居る。

(17) ニューヨークタイムズ紙 六月廿四日

(軍隊は二世に對し公平を要望)

桑港。映畫界の喜劇役者ジヨブソン氏は三万八千哩の大平洋戦線より帰国したが新聞記者團より會見を請ふ。大平洋の米人兵士達は米國內に勅令して居る日系市民に對する暴虐行爲を認めたく、其に慘酷を酷評して居る。大平洋に於ける二世兵士は日本人の容顏を持つて居ればかりに二重の危険がある。と語り、ブラウンは更に二世兵士がジャンゲルの狐兎よりも加州よりも以上危険がある。我々米人はアゼンハイアが獨逸系姓名であると言ふ理由で下り彼將軍を嫌悪したり或は彼ら姓名を記念塔より削除する事が出来るであらう。(桑港エキザミネー紙はブラウン氏に關し長文の記事を出して居るが、日系人に統ては陳述して居らぬ。)(二十吋)

(18) 加州サンデーゴジヤナル紙 六月廿八日

(ハリマン、セル除隊兵伊藤氏を歓迎)

眞眞狀はセル氏が帰還日米人と握手して居る處を撮して居る。帰還路は険し。三年の抑留生活より帰還して農夫は人生の困窮を計畫して讚港を訪門した。該記事はロズヴェルト大統領の聲明を引用して総て忠誠た日米人市民の民主的権利を具へ、他の一部の憤慨にも拘らず、多数兵士は日系人に對して寛大である事を説いて居る。転任局役員マラランソン氏の発表は據れば八十名が立退者は元のホームに帰還した。

(19) 加州オー克蘭ド、ツリビコーン紙 六月廿六日

(日系人生産物ホイコット否定)

WRA役員の會合調査の結果に據れば日系人生産物をホイコットする運動の證據を養見し得ずと云ふ。該問題はマイア転任局長がホイコットの形勢憂慮を發表した時討議されたりであった。

(10) 華府D.C. ニュース紙 六月廿五日

(ハリリ統治の任に當るUSオハニ師團部隊他師團の所在地発表)

パリ六月廿五日、戦後欧州に配置する各US師團の所在地を発表するが、中百歩兵聯隊は獨逸ゴッペンゲン附近にありと報じて居る。

(11) 又桑港ニュース 六月廿六日

(モルドリガーツミスとパットンと議論)

モルドリンと共に前進のカーニストと有名なビルモルドリンは得馬での記者團より會見に於て謂く、二世の問題で其れは食はぬ。伊太利戦線總ての日系兵士は何れも兵士よりも良く闘ひ、彼等は故郷の人々に何物かを見せんとて奮闘戦死した。僕は伊太利で全々軟席兵の無し、而して虚病や臆病兵の無い二つの聯隊を知つて居る。戦争を行つた事か無い人は戦争に出陣し左人々を虐待する権利がなつて居る。(十吋)

(12) 華府D.C. デイリーニュース 六月廿六日

(表彰する多数華府兵士の姓名の内殊勳功第四三戦闘隊の角田)

軍曹の名も記載されて居るが、同氏の妻は目下内務省に勤務して居る。角田軍曹は以前尖州ホートランドに往居して居るものであるが、伊太利パスサナの激戦當時は攻撃部隊間の危地に陣営して觀察部隊の任務を擔當して居るものであると云ふ。



新聞雜誌拔萃要旨

War Relocation Authority
Washington Daily News Digest July 7 '45.

(1) ビバーク・ポストガーゼット。六月廿三日。ダネエスト 6/28

(二) 二世の爲め居住計畫

ビバーク転住局役員ハワード・マッサー博士及市民団轉住委員会々長ジョーン・キス博士は最近商業會議所幹部連と會見し、同地々区凡轉住の計畫を協議し、而して既に松五名の定住者が同地方に來り、他は職業配備完整次第招待する等であるが、全数二百名を越へぬであらうとマッサー博士は発表し、左、高は目下ホステル設置の爲め或るビルディングを改造中であると言はれる。

(2) 加州。六月廿八日

(四) 男の從軍と共に一世植木者本業再開

ヘイワード。植木業から隱退して居る柴田氏は同氏ウイデン植木店を再び開業し、左と云はれる。同氏經營の事業を勝當り左居る長男好(廿九才)は徵兵に召集され、兵營に服役中であり、二男好人(廿八才)軍曹に目下オーストラリア三男好江(廿六才)はテキサス州兵營に帶在中、四男好國(廿三才)はベニング兵營で最近訓練を終へ、太平洋出征を機待中であると言ふが、柴田氏は廿年間植木業に従事して居る人であるが、彼は率先帰還者中一人である。

(3) 央州。六月廿三日 6/28

(ハ) ン プ ソ ン 二 世 兵 士 を 稱 揚

A.P. 通譯員フレッド・ハンプロン氏は六月間、戦線から歸還し、左が彼は二世は大平洋で實に勇敢に闘つて居る。我々の部隊には必ず二世が居り、彼等二世は捕虜にでもなれば非常な慘酷にあふ事を知りつゝ、彼等は誰よりも前進する。二世通譯官が居る爲め日本兵捕虜から多くの情報を得られる譯であると言はれる。

(4) 羅府。六月廿九日 6/29

(負) 棒 在 び ン 歸 還 是 毎 月 七 万 弗 の 郡 の 負 担 と なる

羅府郡評議委員ウリアム・スミス氏の意見として同紙は謂ふ、今後数月の涉つて歸還せんとする負棒な日來入を援助する爲め羅府納税者は毎月七万弗近くを負擔せねばならぬ事である。最初の定住ニヶ月は政府が支辨し、其後郡が負擔する事となつて居る。目下郡では百廿五名の日來入肺病患者をヒルクレストル收容して居り、七月一日より郡の負擔となる。歸還日來入の大多數は四十才以上であるが、青年連は他の区域にホームを求めて居る(六才)

(5) 華州。七月一日 7/1

(二) 世 傷 兵 の 入 会 申 込 拒 絶 五 百 兵 士 再 考 を 要 求

華州スポーケン市よりのアソシエイト新聞報道に據れば、バクスタ病院に療養中の五百の病傷兵士は二世傷兵リッヂワード内藤氏の入会拒絶を再考する様スポケンVFW(出征軍人團)に要請し、左と云はれる。軍入種排斥反對委員會々長ベート・マシの発表に據ると病院幹部は拒絶され、左入会申込再検討を一年後迄は差控へると云ふ漠然としてVFWの規則の爲め、請願書は無視し、左の理由である。辨明し、幹部レイ、アルト氏は内藤氏の拒否され、理由は日來入反對の政策に非らずして、三名の反對投票ある場合申込を拒否し得ると云ふ修改に依るものと答へて居るが、病傷兵連の請願には、馬が必

(6) 華州

教入り偏見の爲め内務兵士が入会拒絶され、事は正當なる、殊に斯る歴史と公共の重責と崇高な民主主義理想を持つ法人團體の執り可き態度を無き事を痛感す」と述べて居る。

(沖繩) 於ける最初の日米兵戦死

夕コマ市の福井聖雄君の沖繩戦線に戦死され、その事か発表され、彼が最初の日米兵戦死者であるとの謂はれる。同氏は福井秀一氏夫妻の消息をアイダホ、パトリック人び前は夕コマに住所され、居ると云はれる。(四寸)

(7) 桑港

夕コマのニクル紙 七月二日

(東崎看護婦謂く「軍人の偏見無し」と)

同看護婦少尉と合見の際、知存メーソン病院内より経験談を語り、左が「兵士が貴方は日米入看護婦でせう。復讐しませう。貴方の様子が憐れ居れば此の戦争は起らなかつた。左である。云ひ、新患者は相妻が面白く興味があり、而して良の日米市民の会つたと一入で喜んで居る。私の患者には大平洋に出征し、尤兵士が多く、何れも同じ様な事を云つて居ると語り、左。因に五名の姉妹の内三名は医師二名は公認看護婦で何れも社合に貢献して居ると居られる。(十九寸)

(8) 華州

ワイルド監督は太平洋沿岸に於て商業的基礎再建を企圖す

日米入に對する不買同盟はW.R.A. 司法省のモットー部門、支戦時食料管理部に依つて保護せられ、と声明し、と。

(9) 紐

紐者ニ占左にスタンダード、スタ、五月廿三日

其の地内、家庭労働に依り、紐往向題が解決し、左かを述べ、著名な家庭に依り、紐女子の雇主は社会事業の業に活躍する婦人であるが、此、日米女子の能力と性質や企圖に感激し、社会生活に趣味を持つ、操縦畫し、多少高等教育を辦其するであらうと報じて居る。

或る朝バスの運転士が毎日の往復運転中を冗談で話気付ける、彼の二世友人がバスをこせ、と様、街の一角で暫く停車し、尤事に乗客の統制が驚いたと云ふ事である。

(10) ニューヨーク

六月廿一日

(紐住所協同消費事業好記録を示す) 本紙記事の報ずる如く、紐住所に於ける新民が組織し、紐住所協同消費事業が本年紐住所の閉鎖と共に解散するが、九所の紐住所協同消費事業の会員である、参万六千六百九十六名の入々は、コーケテル消費組合の運営経験を、通して、彼等の百万消費資金と購買利金卷は、勿論、事彼等より得たる新自信を持ち出所され、事ある。

尚ほ紐住所事業部主人オット、ロスマン氏は一九四四年度に於いて、紐住所協同消費事業は、総額七百方所の高賣を、いと発表して居る。(八寸)

(11) ハー

七月号、チャリス、云ク、ハー氏

(私の日本人患者) スタンフォード医科大学教授にして四十年間桑港に医師開業をして居る、ハー氏は一世患者を取り扱つた経験を通じて、多大の興味を持つもの、如く語り居る、特に患者の米化に入れば日本政府の虚偽の宣傳から逃れ、夫れ故筆者は米國式生活が日米入り大部分を感得し、彼等日米入をして斯る虚偽の誤導から感得され、事は無い」と結論して居る。(八寸)



新聞雜誌被華要

War Relocation Authority

Washington Daily News Depot July 14, 45.

(1) 羅府ニイス 七月五日

ダイゼスト 7/5

(一) フーリー判事等の入種偏見を攻撃
 去る七月四日ハリウッドホテルに於て開かれ古入種相互融和大会に於てフーリー大審院判事は道德頹敗の兆候として九ヶ條を導げ、更ニ同氏謂く「道德的傳染病は肉體上は旅行傳染病の如く傳播して行く。亦、その主義者は果ては信連と相通して人種的、又文化、宗教的増悪の微菌を散布して居る。」
 (二) 倭州
 (三) 倭州
 (四) 倭州
 (五) 倭州

(2) 倭州 (転住所閉鎖計畫)

ハート山 同紙はハート山転住所の閉鎖が計畫されたる事を述べ、其の斯日就てはロバトソン監督は所内各代表者会と相談の上研究中であるが、其分十二月末前であると発表して居る。(三時)

(3) ユ 夕州オクテン。スタンダードエキザミネー。六月三日 7/5

(獨逸の捕虜と在兵士帰還)

一 敵めきり眞実と二時の記事を添へ菅野トムプライベットの事が紹介されて居るが、彼は獨逸捕虜から帰還して居る。以前はオクテンハイスクールに通学して居るものである。ペン州ピッパীগペンプレス紙 七月三日 7/5

(日米入住宅計畫不変)

日米入の住宅計畫は同市街北部住民より抗議ありしにも拘らず臨時居住解決の爲め同市ガスキー孤兒院を使用する事になった。ピッパীগ市民用転住委員会は右計畫を表面より謂く「ピッパীগを南転住地と撰定して来る忠誠なる日米入の爲めには我々は極力援助し、而して彼等は憲法上の特権は保護せられなくてはならない」と

(5) 華府 (三世兵士) 投書 七月六日 7/6

公共団体連絡委員監督を以て夫人は聯合國奉仕会には週未の来客として金澤カネ小尉を招待する事を光榮とすと述べ、同小尉が百大隊の一員であり、軍務には既に三年半服役し、欧州戦線に從軍する事四月、而して彼が二回の夏傷より回復して同が軍務に復帰して事を紹介する。

(6) 羅府 (伊太利カセルカ) 七月七日 7/7

伊太利カセルカ 伊太利帯在才五部隊の解隊と共に才四四二部隊は一九四六年二月帰還し、豫備に備達される事と有

(7) 羅府 デイリリ、ニュース紙 七月六日

(日系入復等生の戦死) 羅府加州大学々生米村等小尉は戦勤裡々日兵兵甲四四二
戦闘部隊の一員であつたが彼の戦死の報告が昨日同校々長
ロバート、スプロール氏の元へ小尉実兄實兵士より告知され
左と傳へて居る。同校長の発表は極其悲愴、小尉は在學中一度
はエールリーダーであり、ジュニア級の會計であり、其他校内幾多團體
の活動に關係し中々の人気者であつたが四月廿一日伊太利戰
線で散華せりと。

(8) 羅府 夕イムス紙 七月六日
(八年振りの父子廻合)

陸軍軍送 寫眞は中四師團通譯官東セイ四等技術兵(羅府身)
が沖繩侵略の際遇害した全見一左彼の嚴父と共に撮影した
寫眞を紹介して居る。占領した沖繩場於て八年目初め廻
合した劇的再會の場面で、羅府ニースも同寫眞を紹介して居る(九時)

(9) 桑港 夕イムス紙 七月六日
(報酬償法は暴行緩和の有効)

報酬償法は暴行緩和の有効 加州檢察長ロバートケネー氏は加州に於ける日
系入襲撃者として逮捕する確実なる證據を報告して居るには
大枚毫々弗の償金を其へる事を発表した。州の法律として
は斯る償金の支拂を許可せぬが、アムカンヒルリバーユニオンが重罪犯
と成る場合支拂せらるべき償金を受ける人名は勿論秘密に
其右償金は用往住開始初期多時ハ勸告して襲撃者や害者者
へも適用するべきである。右の報告は二世傷兵を包む
他人種代表者の出席せる加州カウシルオヴレイルユニオン公民統一部評
議員會の會合に於て發表されたものでケネー檢察長はフレ
スノ郡地方檢察者サムスツン氏の言として同地方警察では
犯人捕縛に凡ゆる努力を請うて居るが最近に至る暴漢は静
まらぬが、償金法に依つて完全に制止するべきである(十時)

(10) エタ州 オクデン、スミス、エキガミ紙 七月四日
(下バス転住所は於二月末前閉鎖される)

塩湖市 同地方監督レイヘイト氏の発表に依ればトバス
転住所は本年暮前に閉鎖されるので、七月には五百名
出所者があり、其後毎週百五人の割合で出所して居る。

(11) 加州 椰府、ビ紙、スタクトン、トド紙 六月廿六日
(立退者家具運送受員入札)

桑港 WRA 輸送部トーマス、ホワイト氏の報告に依れば沿
岸 WRA 倉庫の保管中の日米人の家具類は本年未迄で各
所有者の家庭に運送される。其の爲り右運送業受合を入札し
た結果、政府の負擔は約卅万弗と見積つて居ると云ふ。

(12) コロラド州、ロッキーマウンテン紙 七月三日
(ハート山、七月二日、同転住計畫の進展と共に出所する所)

民の数は日増し多くなり、同所内才ニ最高齡者ハ尋丈七(九十才)
は本日市俄古布に定住する事となつた。

(13) 加州 フレスノ、ビ紙 六月廿七日
(同郡に百五十名の日米人補助讀頭者も豫想)

フレスノ郡社会救済部監督ニット、ガツラー夫人の報告に
依れば現在同郡には未だ転住所より日米人に対し補助金
を付する件は無かつたが、加州社会局の見解に依ると百五十
乃至二百名の可能性があると、郡社会部は一月平均十七名
位の日米人補助讀頭者に對する照会状を受け、大抵讀頭者
の居住證明を尋ねるものであつて、今や此れ等々討つて補
助金を支給して居らぬと云ふ事である。(十一時)



新聞雜誌 精華要旨

War Relocation Authority

Newspaper Daily News Dispatch July 21, 45.

(1) セントポール、デスパ、カ。七月五日

ダイゼスト

7/3

(立退者の保護)

州当局と地方官とは其の統治権の侵害に就いて傳統的に互に嫉妬心を抱いて居るが、日米入に累漢から保護する事を急慢し、西新沿岸の社会は若し聯邦政府が責任を負つて呉れらるれば、決して不平を鳴らす餘地は無い。政府は二世兵士其の家族の權利を擁護し、被辱の住宅を其へ、軍需工場に就職を斡旋し、又立退りに依りて起る損害を賠償す可く準備を居る。

(2) 入種関係に於り毎月の事件と趨勢。五月

7/3

(日米入)

四月内勤奮し、事件は日米入り、權利擁護の勢力する團體の勝利を指摘し、日米入の再転住に反対する極端分子は其の地位を失いつゝあるに反し、同問題に正直に且つ健全な態度を持つ分子は復住に立ちつゝあると述べ、各新聞より日感情の例を舉げて居る。

(3) リトルロクア、カンサス、デモクラト。七月一日

7/4

(日米入プラスキ定住)

同紙二頁の談は大家族の日米入家庭がアーカンサス州、リトルロクア附近のグリーンホーランドに於て百十七英加の農園に從りて居る事を記して居るが、同團體の主腦部である中川雲吉氏は以前前和弦住所の農園監督で、同氏の一子息はハイバド大学に教鞭を執り、他の子息は豫備兵に服役中である。彼は加州に所有する農園の一所に正金四万希で賣却し、當南部地区に定住する事を希望して居る。其の理由は「市場に接近し、気候は理想的であり、人は友好的であるから」と謂て居る。更に立退事件を追想して同紙は立退者の大部が忠誠なる市民である事を力説し、米市民が其の態度を改めつゝある事を記して謂く、「數百と云ふ米入社会内に於て日米入を待遇する気持は日米兵士の戦勳を以て、戦前振りの記録に依り、教会團體、YMCA、YWCA、其の他の團體或は幾百萬の寛大なる市民の情まざる努力に依り、今や好転しつつあり」と。

(4) 羅府タイムズ紙、七月十三日

7/4

(終名の日米外人布哇の帰還)

ホノルル十三日。戦争勤奮當時国防安全の爲め米本国内に転送され、數千の日米外人の布哇帰還は昨日より開始され、終名初めに帰布した。之等入々は各子息を兵隊に送り居る。リ、サード中將の談に據れば復船の都合次第帰國者を送る可なりなるが、之等日米入には反米行為の者は一人も無いと。

(5) 桑港ラウニクル紙、七月十四日

7/6

(転住所閉鎖)

同紙はハ所の転住所閉鎖と後日決定報告せらる可きリキ隔離所を閉鎖し発表し、転住者は六月に於て毎週百名割で出所し、毎週其の數は増加して居ると。高は同紙は教会合同婦人会、サンタバウ得導導委員會の斡旋に依り同市内の佛教会をホステルに使用する事になつたと附記して居る。

(6) 桑港クロニクル紙 七月十五日

(農務省アンダーソン長官日米入の農産物擲打攻撃)
華府アンダーソン農務長官はシャートル附近に於て日米入の生
せの農産物の不買運動の報告を受けたりが斯る差別待遇は実
に不正であると叫び、食料不足の今日事態の善處を勧告す
可くシャートル東北農産物買組合に打電したと。

(7) 加州マセード、サンスタウ紙 七月三日

ケニー加州検査局長は加州に帰還せんとする日米市民に
迫害を加へる謂ふ煽動分子を譴責し七月十二日モントレー
に於て開催せられた入程会合の席上法律執行官への公衆の叫
力を乞ひ、排日派は愛国の假面を被り、如何にも愛国者らしく
星條旗を翻して居るが其の實彼等は安んじて居る人々を州外
に追ひ出して漢夫の利を担はんとする徒輩であると攻撃した。

(8) 紐育アルバニー、ニカバカニュース 七月九日

(差別待遇を叱責)
日米兵士或は日本人の姓名を持つ市民に對し入種的偏見
を發揮し、團體は逐次公前に擲合され叱責されて居ると述
べ、例へば僅に少數の御軍團合員の投票に依つて二世兵士入
会を拒否し、偏見行爲は暴露され、斯く如く公民の激昂
を喚起して日米入に對し大多數の米入市民が同情を寄せて
居ると結論して居る。

(9) 羅府デトリット紙 七月十二日、羅府デトリット紙 七月十二日

(ヤンクス兵二世救護兵を抱き付く)
グラントスミス大尉捕ライベット及ミッセル小尉(羅府出身)の加
紹介、同大尉(加州アサ出身)及ノーマンミッセル小尉(羅府出身)の加
州ヴァーネス、バーミングハム病院訪問記を記述して居る。
両將校共殊勳切の勇士で、現在尚片方四二戦闘部隊に從屬
して居るが、彼等は米国内の頑迷分子のファシ的脅迫、暴漢
或は入種的壓迫を攻撃して居る。
グラントスミス大尉は米国内に帰還して奮見し、或る市民
の不寛容を憤慨し、該問題に就いて意見を發表する事を陸
軍省より許可されたとあると。大尉は謂く、
「自分は凡て自由平等を而して此の戦争に依つて同胞市民
の権利を尊守せねばならぬと云ふ事、且入種偏見と民主
義とは融合相入れざるものであると言ふ事は、學問が國に帰
つたと思つたのであつた」と云ふ。彼は「我輩自身が附屬す
る第四二戦闘部隊の二世兵士の戦闘記録を光榮とするも
うであるが、本國に帰還して或る市民達が除隊二世兵士を
迫害して居る有様を見て、實に恥辱を感した。何時かは一
万の兵士が異郷の地で戦つた目的の自由と権利は一体ど
なつたかと言ふ事を日が来るであろう」と叫んだ。
尚ほタイムズ紙は、大尉の言を以て報告する処に據れば、
敵獨軍の包圍に陥り、全滅とさへ思はれて居るヲキアス州中
三六大隊が、敵彈雨飛の中を突破して救援に行つた日米救援
隊に救ひ出されし時は、實に狂喜のさたで、ヤンキイ兵は勇
く日米兵士を抱き付いたりと語つた。



新聞雜誌 被蒸雲

War Relocation Authority
Washington Daily News Special Aug. 11, 45.

(1) 桑港クロニクル 八月一日

(日系人帰還とテロ)

或今哩の長旅行を混雑するコーナル依て帰還せる四百五
於名々日系人は三年半以来初めて沿岸故郷の慕しい山河の
安ん居し興奮する者咲笑狂喜する者交々であった。櫻府には
大平洋戦線より帰還の兵士達は帰還者を取り巻くことも親
ガレ談笑を交へて居るが帰還者の中には四人の子息を兵隊
に送り四人共負傷し在狩野夫人あり或は五人兵士の母三宅
梅代夫人等も見へたと。

8/2

(2) ビッグバグプレス紙 七月廿八日

(二世兵は第一位と各兵擁護) 寄書

海外戦線にあり七名の兵士達は米國雜誌中の「彼等は故郷
に歸り能す」と云ふ記事を記者に送り質問して謂く。「故郷の
或る人達は一体何事か彼等を戰場に引きずり出して二世兵
士達が如何の優勢を奮闘活躍し居るかを見せろがよい。
我々多数の兵士がヒトラーが大平洋沿岸に相当な進展して居
ると信じて居る事が確である」と。

8/2

(3) 羅府ニュース 八月三日

(ワットウ井ンスラの記事)

数百の忠誠日本人及日系市民が各戦往所より帰還した。
彼等はハ鍋敷の排日派の有為な問題にせず静に帰還して
あり」と。

8/3

(4) クリウランドプレス紙 七月廿日

(ジャパは何処迄もジャパをこの虚論を一掃) デルウイスラフ

ラフトンの氏を彼の評論欄に我等の親友クリウランドの日
系人王と呼び掛り述ぶる処に據ると彼と他の同盟とがWR
A 監督マイヤイ氏、ローパートカラムなフランケル氏等と
面談した結果に依ると日系人の問題は既に絶望的ありと傳
へた。Y W C A の合合に於て彼は二世が米人市民に深き印
證を與へたニッの事を語り日系人は米人に知れぬフ様全國
に今散らす、而して立退者を衷心より歓迎すとの同市々長
の腹い言葉を用いて居る。

8/3

(5) ポートランドオレゴニア紙 七月廿一日

(ポートランドの排日熱下火)

教合聯盟評議員ジョージランキスト氏の発表に據れば同市地区に
於ける排日熱は下火となり排日団体は後援無き為め次第に
消滅しつつあり。同氏は謂く。「人種偏見を騒動して何等得
る処なき事を排日職業家も悟りつ、ある、而して団体組織者
も合費として支拂つた多数人は余りも柔弱であった事を感し、
一体何の爲めか金を拂つたのかと云つて居る。因り同氏は
三週間同市に滞在し、人種問題の統一に關し各団体を支援

8/4

(6) 羅府デイリース紙 八月四日

(小教民族の爲め奨學基金募集)

南加大学々生は小教民族學生奨學基金募集の計畫を開始した。四百人以上の學生は「帰還日米人」に対する偏見感情は計畫的加て陰謀的の團體の壓迫の結果であり、人種的偏見の発露は米国内の何処よりも太平洋沿岸に於て最も赤裸々たる表化せるものである」との「マクウサリ」の民の声明に刺戟を

8/6

(7) 桑港 レイバーヘラルド紙 八月三日

(U.E.の措置榎府人種事件を悉く防ぐ)

C.I.O.電気職工同盟が一四三は日米人と其働を拒む五名の労働者の抗議を拒否して二名の日米人を入会を認め、民主々義の挑むと懸すの活動眞實を公開して人種偏見に対する啓金運動を開始する事を決議した。

8/6

(8) ブルーネットウォーク、八月五日

(米國空軍の戦闘)

太平洋戦線にニアンに帯在中のベン黒木軍曹とカ五分間の対談の印證、同軍曹は米國才空軍、才三一三爆撃隊に從屬するものであるが彼は陸軍B二九に編入する迄は五月の間機待した。彼は政州戦線には卅回の戦闘に従事し、日本本土上空には廿七回飛翔し、今では一ニハポイントを持って居る。勳章も授與されて居る。上官ゼンキンス大佐は黒ホル対人種的差別ありやと尋ねると同氏は「人種的偏見は絶対的でありませんと答へ、ドを日本を攻撃するのにはどんた気が持たすかと尋ねると他の米人兵と何等異なる処はありませんと語った。

8/6

(9) ビーブルスデイリーワールド紙 八月四日

(帰還二世を歓迎) 社説

桑港プラット將軍の声明と四五〇名の調和転往所々民の帰還に關し同紙社説はスタクトン事件の日米人墓地の帰還兵士の依つて修復せられ記事を掲げて居るが、同紙は日米人を帰還せしむるWARAの政策を支援して謂く、「立退の苦難に遭遇した日米人は各地方に帰還して、あり、我々は彼等に対し各職業組合或は他の凡ゆる團體の組織的援助を與へ、以て彼等の帰還を歓迎する事を示す可く努力せし人事を從惠し、尚ほ重大なる事は彼等を暴行より嚴重に保護し、法律上の凡ゆる支援を與へる様地方当局の協力を要望する」。

8/7

(10) 加州 パサデナ、スターニュース紙 八月五日

(二世兵士伊太利トリ帰還)

ローマ、U.P.同紙は第四四二聯隊才一五ニットの帰還を報告し、第五軍指令官ルシアン、ツルスコット中將の言として謂く、「汝等は祖先の如何なる背景を有するとも其は決して問題ではない。汝等は米國陸軍に於ける最も優秀なる兵士である事を遺憾なく發揮した」と稱揚した。

8/7



新聞雜誌 被華愛上

War Relocation Authority

Washington Daily News Signal Aug. 18, 45.

(1) 紐育タイムズ紙 八月八日

(ホール及バートン兩上院議員はF.E.P.C.を強硬)

ジョセフ・ホール(ミネソタ州選出上院)及ハロルドバートン(オクラホマ州選出上院議員)は永久的F.E.P.C. (公平雇傭実行委員会)を設置す可き立法に對議に關し、連兵初杖に於て附議決定する様強要するである。逆を謂く、「我々昨日下産業、転換期に於てF.E.P.C.の如き機關を通じて人種的偏見を減却する事は議會が直面する最大問題の一つである」と信ずると。

(2) ギルドソボーク 七月廿七日

(西部沿岸對日問題に教育に後援する) ドイツロー

「日米入ル對する西部沿岸の感情は新聞の一面に掲載され、果行する件は如く激烈である」と述べ、更にW.R.A. 役入の言を引用し、或は民主主義挑戦の言及し、再転住計畫を記載し居るが、一方公然と日米入の帰還を合法的に防止せんと計る排日團は盛人の活動一つあるが、W.R.A. 或はF.B.I. に依りて嚴重に監視され居ると得て居る。

(3) 紐育P.M.紙 八月十日

(ミシガン在郷軍人團日米兵入会を勧誘)

ミシガン州の三軍人團は且てスボーク在郷軍人團支部に依り入会拒絶されし今昔及内藤兩兵士の入会を容認する。更ニデトロイト及セントンの在郷軍人團も入会を勧誘して居る。

(4) ミネアポリスモーニングトリビュン紙 八月三日

(中西部諸州日米兵入会歓迎)

ウイスコンシン及北ダコタの一部を包むミネソタ地方に於て二十午の立退者の転住を許容し日米兵入会轉住の支援に計し同州は好記録を示して居る。W.R.A. 役員の説に依れば同地方には二万五千人の転住者を期待して居るが、ミネソタ州が及ニ世兵の戦前記録に依り市民は非常な好感を保持して居る。問題は住宅が乏しWR.A.H. 定住者は住宅搜索に努力して居る。

(5) 櫻府ユニオン紙 八月八日

(日米兵入会拒絶を再考)

スポークン法律家グループは在郷軍人團五一支部代表フランクフランクハウサーは入会拒絶に依り問題とならん内藤日米兵の事件に關し、支部評議員は右問題の再考を發表して謂く、「入会に反對せし會員は僅に三名である。評議會は事態の是正を討ち為り州或は國家に在郷軍人團の組織の修正要求に就き對議する事となつた」と。

(6) シェルトルスター紙 八月十日

(在郷軍人團ニ世兵問題に再関する)

スポークン軍人團五一支部にはニ世兵入会拒絶以來具體的措置に關し、廿一日間延期して居るが、同支部は陸軍や政府の決定に對し、廿一日間延期して居るが、同支部は陸軍や政府

8/9

8/9

8/10

8/10

8/11

8/13

桐府ツリビニ紙 八月九日

(日本人美術家山崎帰校)

バウシ。同紙は且つ加州大学に於て庭園設計及美術科の教職に
ある小畑千浦氏の写真を掲載し同氏がトパーパス転住所内にて
米國思想普及の爲め奮闘し結果日本思想黨幹事の改打を
其事を記載する。其の南加州同氏が同校に帰校復職する事
を代表して居る。小畑氏は米國には卅五年以上住居し一九一二年
原港にて結婚し子供は全部米國市民である。彼は加州庭園設
計美術会の大に貢献ししが今回新學期開始と共に帰校する

桑港ウロニクル紙 七月廿五日

(暴徒を有罪判決)

同紙の暴漢事件は加州法廷の及勤等を綜合せる記事は松岡
氏の家庭で焼く坪山と脅迫せしウイッチャグのインサイク婦人を
有罪と宣告し其の結果はイ判事の結果は暴漢に對する有罪判決が加州
に於ける最初の判決である。同判事が暴徒より脅迫され
との報道を否定する。イ判事謂く「外部の人は斯る報道
を耳にすれば其も知れぬが彼等は只此を夫れを判決する者であつて
律は法律として保守し拙者は只此を夫れを判決する者であつて
今回其の職責を果しに過ぎぬ」と。右判事は今回の判決は
全同より多数の激辯の書翰を受けたりしがラス市より一通批
駁の手紙が来在己をなすと云ふ。

アリゾナフィニクスアリゾナレバブル紙 八月一日

(忠誠なる日米人戦後の機会得)

米國に於ける日米人の忠誠を論じて同紙社説は米國海兵團
のジョージ・ワグネル海軍中佐の晩餐会の席上に於て南太平洋に活躍す
る海兵團と共に奉仕する二世兵士の忠誠と勇氣とを語つて
を記して居る。中佐は言明して謂く「諸君若し此の日米人が
ホームに帰還する権利がなく又米國の良市民として尊敬され
歓迎される特權がないと云ふ人は其人は私に返答して
欲し同紙は更に出征兵の大多数の將兵が同中佐と同じ感念
を持つて居ると結論して居る。

アメリカン放送局 八月十日

午後七時十五分の放送「メインストリート」

大平洋戦線は二年間活躍して居る加州カンマテオの帰米兵
加藤建軍曹は日本に對する降服勧告と其の及衝は就いて意見
を尋ねられしが同氏は「聯合軍として日本は天皇陛下を通じて
交渉する事が最も容易である」と答へたと云ふ。
同紙は更に米國人が帰還せんとする日米人の立場は自身を
置き考慮し彼等日米人が再転往せねばならぬ向懸の道面にて
居る事を充分理解する様懇懇として居る。

(在郷軍人團ニ世兵士謝) 八月十四日

(在郷軍人團代表の語る如く)

在郷軍人團代表の語る如く我らはスノーケン在郷軍人團
及新ジーンモナシ支隊長より入合を拒絶せし内藤氏に對し厚
謝しを。爾府ニコリス紙は全同在郷軍人團はスノーケン支新の
愚痴行及對し甚不遺憾の思つて居る。



新聞雜誌披萃要之

War Relocation Authority

Washington Daily News Digest Aug. 25, 45.

(1) ニルウオーキヤナル紙 八月七日

(日系人の為め住宅をリース)

Y.W.C.A.の所有である二階建の家屋が日系人のホステルとする為め今回ニルウオーキヤナル紙の組合に依りリースされた。同組合長ウォルソン牧師は語る如く「揚九は右家屋は余り修繕を要する為め委員合では満足し居るが他に適当な家屋が見付からず、これを保衛するところである。」

8/17

(2) N.B.C.太平洋沿岸放送 八月廿六日

(リッパフキルトリボーター)

午後八時の放送は伊太利戦場における日系兵の戦動を激賞する第四回大隊の指揮官シラー大佐の演説が用説であったが夏に日系人の対する人種的偏見を痛撃し結論として「米国防軍は欧州戦線と勇壯果敢に戦闘し、日系兵士は優る兵士に無かつた」と。

8/17

(3) オークランドホストエミグラー 八月廿五日

(戦争終結と共に意愛神勝利を獲得)

ワイルマン大統領が対日戦勝を発表する時と同じくオークランドに在る日系兵小川敏及福地ツネ子嬢の結婚許可状発布の殊遇が公表された。右二嬢を代表するは戦争勲章以来同市最初のものであるが二人は同市メソヂス教会に於て結婚式を挙行する。

8/17

(4) 四維府ニュース 八月廿七日

(二世兵衛軍團入會)

第四回ニ戦河部隊より田上カリー軍曹は在郷軍入團身八支部委員の立場一致の春同の依り支部長サムスグレラム氏より正式入会を承認された。

8/18

(5) マネセニ州スプリングキルトユニオン紙 七月廿六日

(二世就職の場所)

W.R.A.役人はスプリングキルト市に於ける再就職問題に關し同市市長アルビンアンダソン氏と相談したが自動車メカニックとして二世への就職口は豊富にあり他にも就職の好機会が與へられて居る。転任の役人の数も如く「揚九はボイスタウンには廿二名の日系人青年が就職し居る」と。

8/18

(6) 紐育タイムズ紙 八月廿九日

(日系兵士伊太利と名譽の行進)

伊太利シムソン、皆近指令官フランシスオクス將軍の命令により、参千名の日系兵士は対日戦勝記念日に行進する。是れ五千人の先頭として指導する様命せられた。指揮官はウイリスン州のV.D.ミラー聯隊長である。更ニオクス將軍の報告に據れば、同地に駐屯する白人兵士百六十人及兵隊が米D.コネチーの全員を連署して「オクス及オクス百六隊に宛て、日系兵士達が米國帰還後、平常生活に復歸する上に困難を生じた場合は充分の援助を約する事」を報告された。其の「説」は謂く、「我等D.コネチーの全員は、吾等此處へおられる理の特権に諸君等の上にも等しく與へるべき権利ある事」と。国内民衆の説得し以て諸君等を支援する事を断言すと。(三頁に續く)

8/20

更に伊大和利に於て日米兵士と共に戦つた米兵達は二世兵士は帰国後平生
復歸の上ル吾々より以上の困難あるが故に先復に彼等と帰国せしむ可き
である」と述べ居る。又本日報道に依れば日本降服容認前、百七
拾二名の日米兵士は太平洋戦線に転送される様請願し左と云はれる。
日米兵の死傷数は九千二百廿名で即ち最初の戦術力の三倍増加して居る。
故降兵士の数も僅に六名でそれも病院からの許可なくして戦場に馳駆しをもをあると。

(7) 華府ポスト紙 八月廿九日

(二世兵士日本々土駐屯軍に参加)

伊大和利に於て。日本語を解する第四二大隊中の若干名の帰米兵士は日本
々土駐屯軍に参加する為り召集せられたる。其の他の同隊の多数二世兵
は太平洋特別訓練兵としてこのネソタ軍事情報学校に志願入学する可
く伊大和利より出発するものと報トて居る。

8/20

(8) ビツバグカンテレグラフ紙 八月廿一日

(新生活活に入る日米人家庭)

同紙はペンシルヴァニア州附近に於て養殖業に従事する石本夫婦及六人
の供養(写真)を三合三頁の紙幅を割つて掲載して居る。養殖農園
の地主ウィリアム氏は石本氏の意気を見事補揚し謂く。
「石本家庭は転住所の旧友を失たしたが新しきく知遇を得て居ると。

8/18

(9) 桑港ニュース紙 八月廿八日

(三世農業鑑札許可保留)

櫻府(UP)州農業鑑札許可局昨日の発表に據れば帰還日米人の農業鑑札
許可請願に對して是等では彼等が商業目的の爲め加州に帰還する事に異
議なき陸軍或は海軍省の證明を持参する事を要求せり。而して
日米市及び農業鑑札を許可せしめ不平を通告する米國自由民権
擁護同盟の監督アーネスト・ベンシグ氏よりの書翰に對し、同局は公衆の
利益を保護する爲め斯る處置を執つて居ると報告し居る。

8/21

(10) 紐育ヘルトツリビオン紙 八月廿二日

(一世日本人脅迫)

サンタローサ(S.P)同地セリフの報告に據れば一日本入二世農夫は二名の
暴漢より「四時八時向内此所に立ち退かねば殺す」と脅迫されたと云
ふ。右日本人の名はKマリアと稱する者で最近アリゾナ転住所を出
所した。同氏の妻は日米市民であり八人の小供がある。セリフ、パテ
ソンは目下同家族は警察に保護され居ると報トて居る。

8/22

(11) 紐育タイムズ紙 八月廿九日

(転住所閉鎖運進) ロレス、デヴィス。

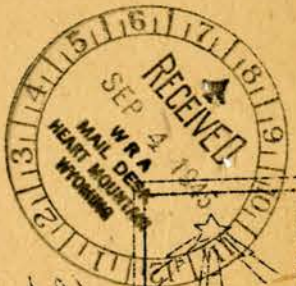
桑港、デヴィス記者は転住所閉鎖日程に關する転住高政策を論じて居るが
同時ロツリビオン紙隔離所の問題にも言及して謂く。「米國市民権を
放棄せんとするツリビオン紙隔離所内に入らざる爲め、これは米國司法省
が處理する事であるが、同所には多数の見聞があり、同時に同所が隔離
所となつた時其処に定位せんと決してを婦女疑を受け、諸地なき者も
入らざるに居ると。更に氏は謂く「ツリビオン大統領や軍部が人々を西部
沿岸に軍事区域に定位する事が戦力努力の危険あり」として帰還を許可
され居らぬと退者も問題に關し如何に解決するが未を倉表されなると

8/22

(12) 市俄古、ニュース紙 八月廿八日

東部や中西部の新開地写真を掲載して二世兵士や二世市民が集む團となつて
市街或は家屋内で対日戦勝祝賀と居る事を記して居るが、同時に
各新聞は二世達の爲め多数都立ホテルが設置されてある事を報ト
て居る。

8/22



新聞雜誌 拔萃要旨

War Relocation Authority
Washington Daily News Super Aug. 30, 45.

ダイゼスト 8/24

(1) 加州櫻府ユニオン紙 八月廿七日
(日系外人の預金凍結)
戦前加州住友銀行に預金した居る日系外人の預金は大審院の命令に依り大蔵省が凍結解除するまで櫻府の他の銀行に移管されること報トて居るが、因り凍結され居る総額は九万弗に上りと云ふ事がある。

(2) クリスチンセンダリ雑誌 八月廿二日
(日系人転住の援助を促進)
貴府七月廿日、米国友愛奉仕委員会に転住所、閉鎖計画が急速に進行されるに鑑テ更り閉鎖後社会が彼等を支援する責任ある事を述べ彼等々の転住を起すに支援する様致会其地、団体は促進して居る。

(3) 市俄古市タイム紙 八月廿日
(アツール於ける二世の労働) キスウカウ
アツール攻略の当時数百の重要書類或は捕虜の質問を而して現在発表出来得る実証。実戦には臨まなず、彼等は数千の白人兵士を救ひ、討日戦の勝利を早むに上り大に功ありと右記者は語つて居る。

(4) 紐育ヘラルドトリビュン紙 八月廿五日
(陸軍は日本制衛の拍車) エキスス
マニラ、マッカーサー將軍の日本駐屯計画を論議した後記者は市俄古の二世兵士ポール家村軍曹と彼ら同僚に對し、祖国日本に上陸せんとする氣持はどんなも多と質問したが、同氏は答へて謂く、「二世市民はそんを感ずは持つて居るが、何故ならば彼等々の大新令は日本に關係者は無かつからである。然し私々如く日本に永く住み親籍のある者にとりては日本への上陸は心痛くあり、赤面を感ずる。我々は冷遇されるかも知れぬ。然し我々は米国人の正義の感念を以て出来得るだけ彼等と納得せしめる積りである」と。

(5) 加州櫻府ユニオン紙 八月廿一日
(更り日系人の家族帰還)
加州ウインタース、更り日系人の家族が当地に帰還した。当地では或る人が日系人帰還を反對運動を開始し、商店では之等日系人の品物を賣つた。日系人の食物を賣つて商店先に群衆押し寄せたが、直ちに其事件をヨロ郡警署署長に急報した。然し別被害は無くない。

(6) 桑港タニコル紙 八月廿五日
(ラム市市長二世の公職雇傭権利を浸透)
市長ラム氏は昨日日系人三山武史氏が桑港市の市職に就く権利を擁護する。シビルサービス役人の右代表は次つて右日系人の雇傭を現因りアメリカンステーションオヴトバートミニスト連が警を發せしむ。然し市長の声明に謂く、「右日系市民は労働の権利を認容する事を期すあり、而して市長は市有電鉄の働人が此の根本的権利を認容する事を期するものがある。抑も右市民がイグニッションエンジスパートである事をWR A役員より充分保證され。幸ひ目下役員あり、若し同氏が適任者であるならば彼を雇傭するであらう」と。

8/25
8/24
8/27
OM-3502

7) 香港レーバーヘラルド紙 八月廿四日

(スタクトンILWU倉庫傷人の停職撤廃)

同盟支部の規則に依り三ヶ月間停職せし居る事を同院に述ぶる處に據んば人種的偏見を抱かざる地方支部の會則に順應するべき右六名會員の折衝に由り本週之等會員の資格保留停職を撤廃しよと同盟の全ニットは審査員の判決を澄認し、高會長リッパヤード、リデン氏は謂ふ、「スタクトンニット(支部)の停職撤廃は支部の自治権の尊重復歸を意味するに充てであり、四海同胞の標語を實踐せんとする世界市民衆の勝利であり、且右行動は若し必要とあらば労働組合は徹底的に依りて人種偏見無き政策を強制する事を出来る事を示すものである。而して會員は斯く向ふに依りてより強くなるものである。尚ほ今度の措置は帰還日米人保護の責任にある他の労働者ニオシ或は政府機関に對し良き手本となるものである」と。

8/27

10) 加州サリナス、カリホルニア紙 八月廿二日

(WRAは日米人に関するサリナスの風説を度外視す)

同紙の記事に據れば九月廿九日五名名の日米人が農園就働の爲りサリナス地方に歸り、還するに云ふ報告を香港駐任高彼人が度外視し居ると云ふ居るが、同時北加州方面再駐任局長の言として同紙は傳へて居る。「アリソナ州ホストンの駐任所前領の曉には如何なる方法を執れば良いかと云ふ事項を論議し、其の方策に就いては未だ正式に通知が到達して居らぬ」と。更にサリナスの或る産主は日米人の再雇傭を進められんが、若し日米人が雇はるゝ知がなれば免れ南サリナス郡へ投り込まれる事である」と。カリホルニア紙は謂ふに居る、香港駐任高はホストン駐任所に歸りては同局の管轄内でない爲り同所閉鎖後は如何なる方法を講ずるや明でない」と報して居る。

8/28

9) 加州サンタ、レジスター紙 八月廿四日

(日本人土地を喪失)

大井カズ(二世)は外人土地法違反に由り今度没収せられた土地を没収されんとシ、レ判事は発表し、其の理由は同氏が右土地を子息フレッドの名義を以て購入して事あると云ふ。

8/28

10) 加州櫻府ツイン紙 八月廿六日

(六ヶ月系入三月内日本へ送還)

送還問題に關する昨日の同紙記事に依れば移民に關する審問會を閉會中である委員會の會長紐育選出議員、スタクソン氏は六名の日米人は輸送船便に出来次第日本へ送還するに語ると報道して居る。一方加州選出イタル議員は委員會に於て戦争終結後總ての日米外人を米國に不忠誠を擧言し左日米市民を檢事總長の認認を以て拘引し而して好からざる敵性外人措置法の規定に從て送還す可きとある事を提案したが、政府當局は目下幾千の露米外人及び伊太利人を彼等本國との協約の結果送還する爲め拘引してありと同氏は語つた。

8/28

11) 加州ハリウッド、シネズンニース紙 八月廿三日

(加州帰還日米人に関する海軍と云ふ意見)

工、アレキ氏(海軍省探偵係)がハリウッドワタリクラブに於て語つたに據れば「日米市民の加州帰還に關しては軍部當局に任せ可きである。日本語學校の経営に對する充分の注意を必要とすると共に外国人の財産所有に關する法律を嚴格にすべきである」と。

8/28



新聞雜誌披華要

War Relocation Authority

Washington Daily News Digest Sept. 7, 45.

(1) アイオワ州デモンレグスター紙 八月廿六日

(二世兵在郷軍人團加入會)

アラス。在郷軍人團アラス州七支部では才百戦部隊の一員を三岡崎(市生)氏の入會を認容し五と報せられしが同氏アイオワ州最初の在郷軍人團加入者である。

8/29

(2) ユタ州オクデンスタンダードエキヰナー紙 八月廿日

(二世兵士ボカテロ在郷軍人團加入)

アイダホ州ボカテロ(AP)ボカテロ軍人團はイヴンヒル緒方軍曹の入會を認一など。ヴラニーツ團長の談に據れば緒方軍曹は赫赫たる戦勳の記録を有し、米国民であり而して本團体は米国の軍人團であると強調して居る。

8/29

(3) シヤトルポストインテリゲンシア紙 八月廿九日

(シヤトル日系人三年後續々故郷に帰還)

転住所の折角三三年後問題が解決され故郷に續々帰還中う日系人は和平社会の再建の爲め貢獻してありと。シヤトル日本人美似教会の町田牧師は傳へて居る。

8/29

尚ほ日本人基督教徒聯盟は左記の如き決議案を可決せりと即ち過去四五十年間を以て我等各自の家庭を建設せる米国の福利道徳の爲め我等は其の努力に向て各自協力する事を決議す。而して我等シヤトル全日系人が正義の基に法現に順應する生活を望みより良き人類社会建設の爲め奇異せんす。

(4) ロサゼルス、ニコラス紙 八月廿七日

(ワシントン市をシヤトル抵抗)

今回ケネディ検事総長は才二回民主主義大會をシヤトルに於て開催し米国民は高にシヤトルの可能性ありと叫びて調ふ。若し米国人が牛乳の如き白色の皮膚を持てれば安全に非らずと云ふ日が到来すれば其の時こそ是千百万の米兵が復戦を目的の米国の最後である」と警告し「夏のカレ、マウウリアム民は米国の起る人とするヲリストを痛撃し其の撲滅を力説す。

8/30

(5) セントポールデイスパツタ 八月廿日

(廿七名の日系人シヤトルに定住せん)

同紙は今後四ヶ月以内の廿七名、日系人カネソタに転住するなる人と報告して居るが、去る八月一日まで日米人の数は約五千人八百五拾名に達して居ると。去る日曜日キソク教会に於ては転住せんとす。日系人を援助す可しと云ふアーサヒの書翰を朗讀し左。其の書翰に謂く。「退退者多敷は加州沿岸に於ては家屋を失う。九日米市民であり或る者は農業や果樹園に成功した人々であり、多くは産業或は商業に經驗ある人々である」と。更に転住局役人ゼームス、ハインズ氏の談に據れば之等退退者男女の内には記録帳にある職業の内一つも彼等から未得ない仕事は無しと語つた。

8/30

○華州バインブリッヂ、レヴィユ

ダイセツト

8/30

(陸軍大尉二世援助を強張)

且て第四二戰術部隊に從屬して居るトリス、クロリー大尉は八月廿一日アイランド市民指導者會の席上に於て日米人の帰還に對して市民の支援を乞ひ且つ寛容なる人事を要請する。

○桑港コロニアル紙其他多数新聞、八月廿一日

8/31

(桑港は依然オツパシヤナリ)

ブルテンの発表に依れば三山武夫氏が市営バス修繕所に雇傭された事により白人職工が一名仕事を停止した。然し他職工は彼三山氏を就職を容認し左と云ふ事がある。職場フーマン談に據れば三山氏は他の四人の職工から午餐費を招待されたと云ふ居る。

WRAや日米市民協會等より相談の結果三山氏は該職を保持する事には決心せず、何故ならば退職すれば他日米人も更切な事となる様感に在るに在ると。尚ほ同紙は同修繕所のカナリ連は三山氏を就職させる事には投票を行はんと述べ、而して労働者権利は根本原理であり特別の職業に於ての特種の特権を以て働く権利は競技的妙技を有する事であると云ふ。更ん桑港コロニアル紙は桑港はコロニアル工場ではなく總ての米人の開放され居る自由な市である」と謂ふ居る。

○桑港コロニアル紙、八月廿九日

8/31

(スタクトンE.L.W.L. 会員除名)

スタクトンC.I.O. E.L.W.U. 組合役員の報告に據れば日米市民の共働を拒み人種的偏見を抱く二人の会員は入種偏見の理由を由り同地倉庫で就働する事を拒絶された。正式に通知は之等二人の労働者を雇傭するに会社へ送達される事になったと云はれる。

○加州バークレー、デイリーガゼット紙、八月廿七日

9/4

(四於四組の二世家庭州の補助を受く)

加州社会部の報告に據れば七月に於て四於四組の日系人家族は因転往補助を受けたと云はれるが、然し補助要求者の数は今、延擱期せし程多数になつたと云はれる。

○加州サンタアナ、レゲスター紙、八月廿一日

9/4

厚木飛行場(A.P.)米国第陸軍航空部隊と共に厚木飛行場に着陸

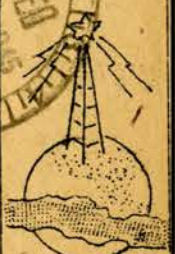
して加州ベニス出身の鹿本一雄氏及通譯官一人の報告に據れば、日本軍人は彼等二世兵士を見て驚意の眼を歓迎したと云はれるが別ル敵愾心を持て居る様だ。日本兵は天白雲下の機降眼を睨みて驚愕したと云はれる。何故ならば日本軍は各全線に於いて優越し勝利を占めて居ると云ふ事を傳へられながら敗戦してとは全く者へ得られなかつたと語ると謂はれる。

○桑港コロニアル紙、八月廿一日

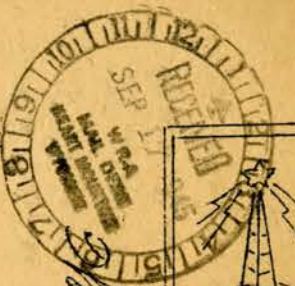
9/4

(小圃教授再出にC大学に奉職)

加州大学幹部會の報告に據れば立退前同大学美術科教授として教鞭を執り居る山本畫家小圃が浦畫伯(一世五於九才)は同校に歸校奉職する事になった。歸還に關し同氏の語ると謂く、今度り同校幹部會の処置は私の大学に於ける誠実と友人諸氏の忠心の結果實現されたものである。



新聞雜誌拔萃要旨



War Relocation Authority
Washington Daily News Digest Sept. 14 1915.

(1) オークランド紙九月三日

(入種の偏見は法律違反)

バスターレ。加州大学法科教授ダッドレーマクゴヴニ氏は所有財産に關して入種の拘束契約を州の法廷に於て実施する事は憲法違反である事を指通して。加州法律評論に於て意見を書き一加州教授は。米国家法中於て四回改正の條を與へられて權利として凡そ入種は平等である事を主張して居る。勿論多数の米国人は初め當時の公私關係に於て其の強き偏見を持つ居るが州政府の勢力範圍に於て入種偏見を持つ可きでなし事を決定して。然る疑ひもなく反動的運動は賛成する米国人が多数ある。入種の住宅の制限を於て州の法廷で実施して居る證據は只その大なりけな。然し正當と認められ九方指し擧ぐ憲法を修正する多数の賛成者が無ければ法律上入種の平等の制は最高法律として残る。

(2) クリグランド、カレンティラー 八月廿八日

(公平を待た)

同紙、通信員ゴブデリック氏はホルムへの途上布哇生の才百大隊の負傷兵軍曹に出会った。ゴブデリック氏は早速西部沿岸に於ける帰還日米人反對の問題を捕へて二世兵士の戦慄は彼等の排日感情を正當なる認められ無き事を指通して。幾百と云ふ日米人のクリグランド方面に兩輪車でもが、我々は彼等を大に歓迎す可き義務があり、又我々を取りては彼等日米人が戦時と平時、別なく忠良な市民であつた事を更澄しを如く、吾々も善良なる市民である可き事を熟考する」と語つた。

(3) ハーパー雜誌 九月号

(戦争中の大過失)

正義の大過失を認識する為めには屢々時日を要すと云ふ大学法科教授であり前國務省のレドリックの顧問であつたロスト教授は述べて謂く、「吾等の法律の傳統を注視すると西部沿岸撤退事件は殆んど信じられぬ様な事實である」と。
同教授は更には梅氏事件に對して大審院に於て沿岸立退命令憲法の抵触せむと云ふ他の判事達の意見に反對の論説を各一をロスト及びマーサー判事の意見を支拂ひ、彼は立退命令が戦時中の過行から反動的な法律の却りである國家政策にまで變化してしまふ事を支拂はず可き鋭鋒を下して彼ら軍部が力を民間者のために使はれざるに廣大せしめる處の教義であり、若し之れを根絶するに妨らざれば意外な社会的な政治的争闘を惹起するに至るのである」と論じて居る。

-1-

更に同氏は軍事防衛の名目を以て西部沿岸に実施される事をハワイルに於て行はれる方法と対照し追憶して謂く、
「確り重罪罪人として布哇に於て抑留された人々は個人的嫌疑が下る逮捕されなむと決して反屬の拘束に由りて行はれなむと云ふ」

9/6

9/5

(續)

「日本が」法律の歴史は其の撤退問題を正事と見做さず其の事より外に空想する何物をも興へない」と評しにストー教授は其の西部防衛指令官であつたデューク將軍が「日本市民が米國に及行意を記さぬ」と云ふ提議は其の外にも無い。今日まじサボタービ事件が現れ無かつたと云ふ事実は斯う行違が取らるべきである。不安な面への確実な暗示である」と云ふ結論を反駁して、更ら立退問題に關し同氏は其の證據は只だ一つの結論に到達する、即ち西部沿岸撤退政策を施行して有力なる原因は入種的偏見より生ずるものも軍事の見會が主である。市民の持つ当然の権利も大審院が擁護する事し失敗し軍事は軍事的法令を認めざるに於いて獨自在法律上の審査檢討がなされたる事と一定してエニスパーテミルが事件に於ける南北戦の判決を時代遅れとして処置して一例である」と稱し、日米人の立退計畫が危険極まる違案の基くものがある事を述べ、三ヶ條の立退なる賠償が得られ追求す可きである。即ち(一)立退者の民権を保護す可き政府の完全な義務、(二)至多なる財政的賠償、(三)大審院は以前、判決を逆転せしめる事し努力す可き事であると。

(4) 泰港ニユース紙 九月五日

(終結して事件)

日米戦争が終結して以上日米人の除外令問題も東京湾に於いて降服條件を調印せしむる戦勝の一歩である。加州の人々はアラト將軍が加州に於ける日米人除令の解除を聲明して言葉も真面目に傾聴するが良いと即ち「最も大切なる事は日米人は米國及加州に住む他の市民と同等の權利と特權を持つて居る。即ち彼等は同じ法律の下にある故に米國司法省は彼等の行為が國家の安全に危険なきかも確たる責任がある。」

(5) ワサゼルス Herald エキスプレス紙 九月七日

(日米人兩の西難府に侵入)

同紙第一頁の特記記事は高野山オスエ及び小東京の商業光景を述べて謂く、「日米人ヨロニーより撤退して四万人の内三百人以上は既に帰還して、南加州には三、四千人は既に他州へ所或は農園地既に両州住し、小東京街に於ける彼等の商店は閉店して、該州帰還者より會見の事を語り住定對を移調して居る。」

(6) シェルトル タイムズ紙 九月七日

APの報告に據れば以前シェルトル市に在りては梅もメリー中田嬢は同市在中メリー嬢教會に出席してモヤリク信者となつて居るが同嬢は太平洋戦争中大連其他滿州のミッションを經營して尼まの一人である。同嬢の家族はミネソタ州に居るが同嬢は同嬢の居る所である。

(7) 桑港クロニクル紙 九月九日

(二世兵士の家族リックモンドハウレングの住居)
二世兵士の家族は昨日リックモンドのハウレングに居る事となつた。同所はナショナルハウレングの規定に従つてあるものであるが軍需工場働人が退つた蔵屋の借家優先権を兵士達に與へるがある。WRN及政府住宅管理人は二世の兵士の復元を計る標請求して居るものと。